

エコアクション21

環境活動レポート No. 9



発行日: 2020 年 6 月 25 日

活動期間: 2019 年 1 月 1 日 ~ 2019 年 12 月 31 日



株式会社 丸福運送

【 目 次 】

目 次	1
1. 組織の概要	2
(1) 会社概要	2
(2) 登録対象範囲	2
(3) 実施体制	3
2. 環境方針	4
3. 環境負荷の調査結果	5～7
4. 環境目標	8～10
5. 環境活動計画	11～12
6. 環境目標の実績	13～19
7. 環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容	20～25
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	26
9. 代表者による全体評価と見直し結果	27

1. 組織の概要

(1) 会社概要

事業者名 株式会社 丸福運送
代表者名 瀬尾 茂数
所在地 〒814-0171 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
法人設立年月日 昭和41年11月5日
資本金 1000万円
主要業務内容 一般貨物運送、引越(一般家庭、事業所)、精密機械搬入搬出、
物流資材販売、PCカスタマイズ、産業廃棄物収集運搬

事業規模

項目	単位	2016年	2017年	2018年	2019年
売上高	百万円	896	882	854	802
従業員数	人	109	108	109	95
床面積	m ²	6,306	6,306	6,306	6,306
車両数	台	98	94	90	89

(2) 登録対象範囲

■組織 全組織

- ・本社 : 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
- ・福岡支店(福岡営業所) : 福岡県福岡市早良区東入部3-1-8
- ・福岡支店(東倉庫) : 福岡県糟屋郡粕屋町仲原3-7-38
- ・南支店(南営業所) : 福岡県朝倉郡筑前町朝日1148-1

■活動

事業活動の内容 一般貨物運送事業、引越(一般家庭、事業所)、梱包、精密機械搬出
搬入、重量物据付運搬、物流資材販売、冷凍チルド輸送、PCカスタ
マイズ、倉庫業、保管・管理・流通加工、産業廃棄物収集運搬業

許可番号等

一般貨物自動車運送事業 福陸自第4937号

倉庫業 福運航第931号

産業廃棄物収集運搬業 許可年月日 有効年月日

福岡県 04000043607 平成30年10月7日 平成35年10月6日

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、ゴムくず、木くず

佐賀県 04103043607 平成30年11月7日 平成35年11月6日

ゴムくず並びに廃プラスチック類、金属くず及びガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

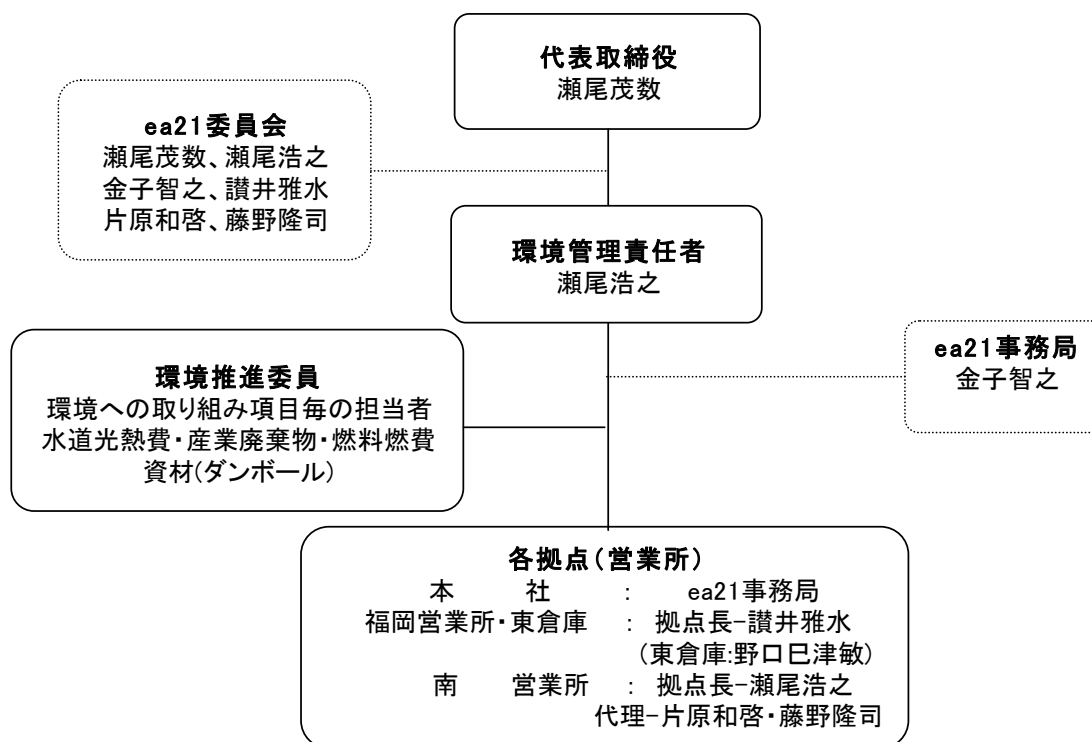
登録車両 バン(箱車) 32台

2019年度 産業廃棄物収集運搬実績 24.7t

環境管理責任者 物流部 部長 : 瀬尾 浩之
E A-21 事務局 総務部 課長 : 金子 智之
連絡先(事務局) TEL : 092-801-1155
FAX : 092-864-1255
E-mail : t-kaneko@marufukuunso.co.jp
URL : <http://www.buturyu.info/>

活動年度 1月～12月

（3） 实施体制



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表取締役	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ ②環境方針を策定し従業員全員に周知する ③ea21全体の取り組み状況に関し、評価・見直しを実施する ④環境管理責任者、環境委員などを任命する ⑤環境整備に対する経営資源投入について意志決定する
環境管理責任者	①ea21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築実行し環境面の実績を向上させる ②上記の結果を最高責任者へ報告する ③ea21の書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてea21全般の舵取りを行い、実行を推進する ⑤環境目標、環境活動計画を作成し、社員全員に周知する
環境推進委員	①環境経営システムの文書化をとりまとめる ②環境への負荷の自己チェックを確認し取りまとめる ③環境への取り組みの自己チェックを確認し取りまとめる ④環境管理責任者を補佐し問題点の審議と解決策を立案する
拠点長	①自拠点の環境目標、環境活動計画を拠点全員に周知する ②自拠点の環境目標、環境活動計画の実績把握を行う ③自拠点の教育・訓練を実施する ④社内外の環境情報の収集と伝達を行う ⑤自拠点の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
ea21委員会	①毎月の拠点長会議後に開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
事務局	①ea21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う ②各拠点内でのサポートを行う

2. 環境方針

環 境 理 念

株式会社 丸福運送は、環境問題に積極的に取り組み社会に貢献する活動を推進し、地球環境保全及び地域社会の発展に寄与するとともに、社会からいっそう信頼される企業を目指します。

環 境 方 針

1. 事業活動全ての業務において、省エネルギー・省資源、廃棄物削減・リサイクル、節水、環境に優しい物品の購入と導入に努めます。
2. 自動車からの排気ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止する為、エコドライブの実践、低公害車の導入を推進します。
3. 引越業務や輸送業務、精密機器搬入出業務で使用する資材のリユース化を推進し、新たに購入する資材の削減に努めます。
4. 引越業務や輸送業務、P Cカスタマイズ業務で排出される廃棄物（梱包材）の再利用とリサイクルに努めます。
5. 環境目標を設定して、定期的に見直すことにより、環境保全活動の継続的な改善に努めます。
6. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の防止に努めます。
7. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の意識向上を図り、地域の環境保全に積極的に貢献します。
8. この方針を、広く社外に公開します。

制定：2011年1月1日

株式会社 丸 福 運 送

代表取締役

瀬尾 茂 毅

3. 環境負荷の調査結果

環境負荷削減の目標及び環境活動計画を策定するため、過去3年間の環境負荷実績の調査結果は下表の通りです。

全社

環境への負荷		単位	2016年	2017年	2018年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO ₂	1766564.367	1581926.104	1479976.469
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO ₂	1766775.21	1582134.838	1480168.336
	()	kg-CO ₂			
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	72.529	42.17	53.5
	中間処理用	t			
	うち再資源化等量	t			
	最終処分量	t			
	中間処理後の産廃の処分量	t			
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0
		(熱回収・焼却)	t	1.393	1.2786
		合計量	t	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	130.64	137.975
		(熱回収・焼却)	t	0.36	0
		合計量	t	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0
	下水道	m ³	257	301	222
④-2 水使用量	上水	m ³	257	301	222
	工業用水	m ³	0	0	0
	地下水	m ³	0	0	0
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	1208913.06	1172640.36	1099613.29
	化石燃料	MJ	24911208.02	22248911.73	20813272.65
	新エネルギー	MJ	0	0	0
	その他	MJ	0	0	0
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	21.045	19.837	18.316
	循環資源使用量	t	5.08	2.803	7.125
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0
	水の利用量	m ³	0	0	0
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t			
	環境負荷低減に資する製品等	t			
	容器包装使用量	t			

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1 総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2 水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂排出係数(2017年度実績) 0.463kg-CO₂/kWhとしています。

*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量

*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

※総排水量と水使用量について

南支店(南営業所)の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店(福岡営業所、東倉庫)の値としています。

本社・福岡支店

環境への負荷		単位	2016年	2017年	2018年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO ₂	1024411.571	1024726.523	997104.9997
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO ₂	1024622.414	1024935.258	997296.8669
	()	kg-CO ₂			
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	72.529	42.17	53.5
	中間処理用	t			
	うち再資源化等量	t			
	最終処分量	t			
	中間処理後の産廃の処分量	t			
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0
		(熱回収・焼却)	t	0.5472	0.5714
		合計量	t	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	49.14	32.77
		(熱回収・焼却)	t	0.36	0
		合計量	t	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0
	下水道	m ³	257	301	222
④-2 水使用量	上水	m ³	257	301	222
	工業用水	m ³	0	0	0
	地下水	m ³	0	0	0
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	942647.85	922997.68	823783.49
	化石燃料	MJ	14283810.61	14300420.05	13964630.91
	新エネルギー	MJ	0	0	0
	その他	MJ	0	0	0
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	20.623	19.5	17.976
	循環資源使用量	t	5.08	2.803	7.125
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0
	水の利用量	m ³	0	0	0
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t			
	環境負荷低減に資する製品等	t			
	容器包装使用量	t			

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂排出係数(2017年度実績)0.463kg-CO₂/kWhとしています。

*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量

*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

南支店

環境への負荷		単位	2016年	2017年	2018年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素(目標設定項目)*1	kg-CO ₂	742152.7964	557199.5805	482871.4692
	二酸化炭素(全項目)*2	kg-CO ₂	742152.7964	557199.5805	482871.4692
	()	kg-CO ₂			
② 受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	0	0	0
	中間処理用	t			
	うち再資源化等量	t			
	最終処分量	t			
	中間処理後の産廃の処分量	t			
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	0	0
		(熱回収・焼却)	t	0.8458	0.7072
		合計量	t	0	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	81.5	105.205
		(熱回収・焼却)	t	0	0
		合計量	t	0	0
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0
	下水道	m ³	0	0	0
④-2 水使用量	上水	m ³	0	0	0
	工業用水	m ³	0	0	0
	地下水	m ³	0	0	0
⑤ 化学物質使用量		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
		kg	0	0	0
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	266265.21	249642.68	275829.8
	化石燃料	MJ	10627397.41	7948491.682	6848641.74
	新エネルギー	MJ	0	0	0
	その他	MJ	0	0	0
⑦ 物質使用量	資源使用量	t	0.422	0.337	0.34
	循環資源使用量	t	0	0	0
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質	利用された物質	t	0	0	0
	水の利用量	m ³	0	0	0
⑨ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t			
	環境負荷低減に資する製品等	t			
	容器包装使用量	t			

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1 総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2 水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂排出係数(2017年度実績)0.463kg-CO₂/kWhとしています。

*1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量

*2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

4. 環境目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。

目標設定の基準は、2018年度のデータに2017年7月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両の2018年度燃料消費量〔軽油〕データを南支店へ加算し、本社・福岡支店の冷凍冷蔵車両分〔軽油〕を南支店へ移動したものを使用しております。

①本社・福岡支店の2018年度軽油	351,607.33(L)
南支店へ移動した冷蔵冷凍冷蔵車両分	▲24,403.66(L)
◎本社・福岡支店の軽油基準値	327,203.67(L)

②南支店の2018年度軽油	169,107.14(L)
本社・福岡支店から移動した冷凍冷蔵車両分	24,403.66(L)
株式会社明和運輸のチルド車加算分	91,300.60(L)
◎南支店の軽油基準値	284,811.40(L)

◎全社の軽油基準値	612,015.07(L)
-----------	---------------

※3. 環境負荷の調査結果（5ページ）の2018年温室効果ガス排出量に「株式会社 明和運輸」の軽油は含まれていませんが、下表（環境目標）の二酸化炭素排出量の削減2018年度基準値は含めています。

【全 社】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	1,719,581	1,702,382	1,685,187	1,667,991
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 25,159	1%削減 24,907	2%削減 24,656	3%削減 24,404
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 612,015	1%削減 605,895	2%削減 599,775	3%削減 593,655
電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	基準値 111,863	1%削減 110,744	2%削減 109,626	3%削減 108,507
灯油使用量の削減(L)	基準値 1,301	1%削減 1,287	2%削減 1,274	3%削減 1,261
2.総排水量の削減(m ³)	基準値 222	1%削減 219.78	2%削減 217.56	3%削減 215.34
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 161.328	1%削減 159.715	2%削減 158.101	3%削減 156.488
4.グリーン購入使用品目の積極 購入・使用	基準値 積極購入使用	購入使用維持 積極購入使用	購入使用維持 積極購入使用	購入使用維持 積極購入使用
5.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 10.02km/ℓ 軽油 5.10km/ℓ	ガソリン 10.12km/ℓ 軽油 5.15km/ℓ	ガソリン 10.22km/ℓ 軽油 5.20km/ℓ	ガソリン 10.32km/ℓ 軽油 5.25km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度実績）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【本社・福岡支店】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	933,062	923,726	914,398	905,063
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 13,923	1%削減 13,784	2%削減 13,645	3%削減 13,504
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 327,204	1%削減 323,931	2%削減 320,660	3%削減 317,387
電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	基準値 83,803	1%削減 82,965	2%削減 82,127	3%削減 81,289
灯油使用量の削減(L)	基準値 1,301	1%削減 1,287	2%削減 1,274	3%削減 1,261
2.総排水量の削減(m ³)	基準値 222	1%削減 219.78	2%削減 217.56	3%削減 215.34
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 62.883	1%削減 62.249	2%削減 61.626	3%削減 60.998
4.ダンボール使用量の削減(t)	基準値 17.44	1%削減 17.266	2%削減 17.091	3%削減 16.917
5.低公害車の100%導入の維持【運送用車輛】	基準値 100%	100%維持 100%	100%維持 100%	100%維持 100%

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
6-1.ガソリンの燃費向上	基準値 8.36km/ℓ	1%向上 8.44km/ℓ	2%向上 8.53km/ℓ	3%向上 8.61km/ℓ
営業車	基準値 10.03km/ℓ	1%向上 10.13km/ℓ	2%向上 10.23km/ℓ	3%向上 10.33km/ℓ
自家用車	基準値 8.02km/ℓ	1%向上 8.10km/ℓ	2%向上 8.18km/ℓ	3%向上 8.26km/ℓ
6-2.軽油の燃費向上	基準値 5.58km/ℓ	1%向上 5.64km/ℓ	2%向上 5.69km/ℓ	3%向上 5.75km/ℓ
大型車	基準値 3.25km/ℓ	1%向上 3.28km/ℓ	2%向上 3.31km/ℓ	3%向上 3.35km/ℓ
中小型車	基準値 6.19km/ℓ	1%向上 6.25km/ℓ	2%向上 6.31km/ℓ	3%向上 6.37km/ℓ
コンビニ車	基準値 6.22km/ℓ	1%向上 6.28km/ℓ	2%向上 6.34km/ℓ	3%向上 6.41km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO₂ 排出係数（2017 年度実績）0.463kg-CO₂/kWh としています。

【南支店】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	786,519	778,656	770,789	762,923
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 11,236	1%削減 11,124	2%削減 11,011	3%削減 10,899
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 284,811	1%削減 281,964	2%削減 279,115	3%削減 276,267
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 28,060	1%削減 27,779	2%削減 27,500	3%削減 27,218
灯油使用量の削減(L)	基準値 0	1%削減 0	2%削減 0	3%削減 0
2.総排水量の削減(m³)	基準値 0	1%削減 0.00	2%削減 0.00	3%削減 0.00
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 98.450	1%削減 97.472	2%削減 96.480	3%削減 95.497
4.エコ・地域活動項目の継続と発展	基準値 項目の継続	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
5-1.ガソリンの燃費向上	基準値 11.91km/ℓ	1%向上 12.03km/ℓ	2%向上 12.15km/ℓ	3%向上 12.27km/ℓ
営業車	基準値 11.59km/ℓ	1%向上 11.71km/ℓ	2%向上 11.82km/ℓ	3%向上 11.94km/ℓ
自家用車	基準値 13.65km/ℓ	1%向上 13.79km/ℓ	2%向上 13.92km/ℓ	3%向上 14.06km/ℓ
5-2.軽油の燃費向上	基準値 4.55km/ℓ	1%向上 4.60km/ℓ	2%向上 4.64km/ℓ	3%向上 4.69km/ℓ
大型車	基準値 3.00km/ℓ	1%向上 3.03km/ℓ	2%向上 3.06km/ℓ	3%向上 3.09km/ℓ
中小型車	基準値 7.04km/ℓ	1%向上 7.11km/ℓ	2%向上 7.18km/ℓ	3%向上 7.25km/ℓ
冷凍冷蔵車	基準値 3.38km/ℓ	1%向上 3.41km/ℓ	2%向上 3.45km/ℓ	3%向上 3.48km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数(2017年度実績)0.463kg-CO2/kWhとしています。

5. 環境活動計画

【全社共通】

No.	環 境 目 標	実 施 事 項	実施部門 責任者
1	電気使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 総電気使用量・・・ 2018年度比 1%削減	①エアコン設定温度の順守 ②休憩時間、不使用時の消灯 ③コピー機の使用頻度を減らす	全拠点 拠点長 本社は事務局
2	燃料使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 ①車両燃料・・・2018年度比1% 削減 (ガソリン・軽油の削減) ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:5.15km/L ガソリン:10.12km/L	①運転指導(デジタコ等)による走行距離あたり 燃料消費効率の向上(エコドライブ) ②車両整備による走行距離あたり燃料消費効率 の向上(エコドライブ) ③タイヤの空気圧を測る ④タイヤのローテーションを行う	全拠点 拠点長 本社を除く
3	灯油使用量の削減 《目標》 2018年度比 1%削減	① 冬期時室内温度を守る ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する	全拠点 拠点長 本社は事務局
4	廃棄物排出量の削減 《目標》産業廃棄物量削 減・・・2018年度比1%削減	①引越業務、輸送業務におけるプラスチックダン ボールの利用	福岡営業所 福岡拠点長
5	一般廃棄物排出量の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②リユース、リサイクル推進活動の展開 ③排出量の秤量管理	全拠点 拠点長 本社は事務局
6	総排水量の削減 《目標》 2018年度比1%削減	①洗車ルールの周知徹底による節水意識の浸 透 ②ストッパー付き洗車ノズル使用の継続 ③効率の良い洗車手順の調査・指導	全拠点 拠点長 本社は事務局
7	グリーン購入品目の積極購入 《目標》 積極的に購入・使用する	①購入する物品は積極的にグリーン購入品目を 発注する ②積極的にグリーン購入品目を使用する	全拠点 購入担当者

【各拠点】

No.	環 境 目 標	実 施 事 項	実施部門 責任者
K1	低公害車100%導入の維持 《目標》 100%導入維持	①低公害車の100%導入【運送用車両】	本社 本社購入担当者
K2	ダンボール使用量の削減 《目標》 2018年度より1%削減	①引越業務におけるダンボールの再利用化	福岡営業所 福岡拠点長
K3	エコ・地域活動項目の継続と発展 《目標》 エコ・地域活動を継続・発展	①グリーンカーテン・営業所周辺の清掃活動を継続して行う。 ②エコロジー活動や地域に貢献できる活動を模索し活動を発展させる	南営業所 南拠点長
K4	【本社・福岡支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:5.64km/L ガソリン:8.44km/L 《目標》車種別 軽 油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:3.28 営業車:10.13 小中型:6.25 自家用:8.10 コンビニ :6.28	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	福岡営業所 福岡拠点長
K5	【南支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:4.60km/L ガソリン:12.63km/L 《目標》車種別 軽 油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:3.28 営業車:10.13 小中型:6.25 自家用:8.10 コンビニ :6.28	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	南営業所 南拠点長

6. 環境目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

【全 社】

※判定は、○.. 達成 ×.. 未達

環境目標	2018年度 (基準値)	2019年度 目標値	2019年度		
				年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 1,719,581 kg-CO2	-	目標値	1,702,384	
			実績値	1,457,644	
			判 定	○	
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 25,159 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	24,907.00
				実績値	21,843.40
				判 定	○
		②軽油の削減 612,015 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	605,895.00
				実績値	516,011.97
				判 定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 111,863 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	110,744
				実績値	110,885
判 定				×	
④灯油の削減 1,301 L 実施責任者：各拠点長		目標値		1,287.00	
		実績値		562.00	
		判 定		○	
2. 総排水量の削減	排水量 222 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	219.78	
			実績値	207.00	
			判 定	○	
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 161,328 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	159.715	
			実績値	143.304	
			判 定	○	
4. グリーン購入使用品目の積極購入・使用	グリーン購入品目の積極購入使用 積極購入使用 実施責任者：拠点長・購入担当	積極的に購入・使用	目標値	積極購入使用	
			実績値	積極購入使用	
			判 定	○	
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2018年度 10.02km/L	10.12km/L	ガソリン	10.27	
	基準データ 5.10km/L	5.15km/L	軽 油	5.34	
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より1%向上	判 定	○/○	

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 1,457,804 kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO2 排出係数（2017 年度実績）0.463kg-CO2/kWh としています。

※総排水量と水使用量について、南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で、使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2018年度 (基準値)	2019年度 目標値	2019年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 933,062 kg-CO2	-	目標値	923,727
			実績値	782,171
			判 定	○
	燃料消費量の削減 ①ガソリンの削減 13,923 L 実施責任者：本社除く拠点長 ②軽油の削減 327,204 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	13,784.00
			実績値	11,631.27
			判 定	○
			目標値	323,931.00
			実績値	272,370.91
			判 定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減 ③電気使用量 83,803 kWh 実施責任者：各拠点長 ④灯油の削減 1,301 L 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	82,965
			実績値	84,175
			判 定	×
			目標値	1,287.00
			実績値	562.00
			判 定	○
2. 総排水量の削減	排水量 222 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	219.78
			実績値	207.00
			判 定	○
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 62.883 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	62.249
			実績値	50.563
			判 定	○
4. ダンボール使用量の削減	総使用量 17.44 トン 実施責任者：福岡拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	17.266
			実績値	18.392
			判 定	×
5. 低公害車の100%導入の維持	低公害車導入率(%) 実施責任者：本社購入担当者	100%維持	目標値	100%維持
			実績値	100%維持
			判 定	○
6. ガソリン・軽油の燃費向上	2018年度 8.36km/L	8.44km/L	ガソリン	9.51
	基準データ 5.58km/L	5.64km/L	軽油	5.71
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より1%向上	判 定	○/○

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 782,331 kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO2 排出係数（2017 年度実績）0.463kg-CO2/kWh としています。

【南支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2018年度 (基準値)	2019年度 目標値	2019年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 786,519 kg-CO2	-	目標値	778,657
			実績値	675,473
			判定	○
	燃料消費量の削減 ①ガソリンの削減 11,236 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	11,124.00
			実績値	10,212.13
			判定	○
			目標値	281,964.00
	②軽油の削減 284,811 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	243,641.06
			判定	○
	事務所及び作業場の 電力・灯油使用 量の削減 ③電気使用量 28,060 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	27,779
			実績値	26,710
			判定	○
			目標値	0.00
2. 総排水量の削減	排水量 0 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	0.00
			判定	
			目標値	0.00
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 98.45 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	92.740
			判定	○
			目標値	97.472
4. エコ・地域活動項目の継続と発展	エコ・地域活動項目の継続と発展 項目の継続 実施責任者：南営業所拠点長	活動項目の継続	実績値	継続と発展
			判定	○
			目標値	継続と発展
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2018年度 11.91km/L 基準データ 4.55km/L 実施責任者：本社除く拠点長	12.03km/L	ガソリン	11.11
		4.60km/L	軽油	4.93
		基準より1%向上	判定	×/○

○全項目（目標設定外の項目を含む）の二酸化炭素排出量 675,473kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度実績）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【車種ごとの燃費】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境目標	2018年度 (基準値)	2019年度 目標値	2019年度	
			年合計	
【本社・福岡支店】 ガソリンの燃費向上	ガソリン・営業車 10.03 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	10.13
			実績値	10.93
			判定	○
	ガソリン・自家用車 8.02 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	8.10
			実績値	9.22
			判定	○
【本社・福岡支店】 軽油の燃費向上	軽油・大型車 3.25 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	3.28
			実績値	3.35
			判定	○
	軽油・中小型車 6.19 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	6.25
			実績値	6.25
			判定	○
	軽油・コンビニ車 6.22 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	6.28
			実績値	6.27
			判定	×
【南支店】 ガソリンの燃費向上	ガソリン・営業車 11.59 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	11.71
			実績値	11.33
			判定	×
	ガソリン・自家用車 13.65 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	13.79
			実績値	10.30
			判定	×
【南支店】 軽油の燃費向上	軽油・大型車 3.00 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	3.03
			実績値	3.19
			判定	○
	軽油・中小型車 7.04 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	7.11
			実績値	7.20
			判定	○
	軽油・冷凍冷蔵車 3.38 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	3.41
			実績値	3.71
			判定	○

(1) 燃料消費量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

目標値について、燃料消費量は全社、本社・福岡支店、南支店全てにおいて、ガソリン・軽油共に目標を達成しています。今年度は2018年度を基準に新たに3カ年の目標値を設定した最初の年度です。前年度には含めていなかった2017年7月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両は南支店の所属として目標・実績管理に含めています。

本社・福岡支店、南支店において、ガソリン・軽油の消費量がともに減少（燃料消費量の目標を達成した）しました。車両台数は2018年度が88台、2019年度は89台と増加していますが、2019年度は旧明和運輸の大型冷凍車6台を含めた台数ですので、前年度から5台の減少となっています。また、従業員数も、2018年度は109名、2019年度は95名と14名の減少となっています。ガソリン・軽油消費量の減少は、このような企業規模の縮小によるとみています。

前年度からの課題を進化させて、自社車両で運送した走行距離や稼働時間とその売上金額の関係を把握し、売上金額に対するコストという観点で燃料消費量を簡易に見えるような方法を模索してまいります。

(2) ガソリン・軽油の燃費向上【全社、本社・福岡支店、南支店】

拠点別の目標値について、全社、本社・福岡支店のガソリン・軽油及び南支店の軽油は目標を達成しました。南支店のガソリンのみが目標を達成できませんでした。

今年度から下記のように車両を6つに分類（車種）し、本社・福岡支店、南支店毎にそれぞれ目標・実績管理を行うようになりました。

①ガソリン ・営業車 ・自家用車

②軽 油 ・大型車 ・中小型車 ・コンビニ車（福岡支店） ・冷凍冷蔵車（南支店）

車種ごとの目標値について、本社・福岡支店のコンビニ車及び南支店のガソリン（営業車と自家用車）が目標を達成できませんでした。

			目 標	今年度	結 果
本社・福岡支店	ガソリン	営業車	10.13 km/L	10.93 km/L	達成○
		自家用車	8.10 km/L	9.22 km/L	達成○
	軽 油	大型車	3.28 km/L	3.35 km/L	達成○
		中小型車	6.25 km/L	6.25 km/L	達成○
		コンビニ車	6.28 km/L	6.27 km/L	未達成×
南 支 店	ガソリン	営業車	11.71 km/L	11.33 km/L	未達成×
		自家用車	13.79 km/L	10.30 km/L	未達成×
	軽 油	大型車	3.03 km/L	3.19 km/L	達成○
		中小型車	7.11 km/L	7.20 km/L	達成○
		冷凍冷蔵車	3.41 km/L	3.71 km/L	達成○

前年度（2018年度）を基準値として3カ年の目標値を設定しましたが、前年度の燃費は、ガソリン・軽油共にその前の年度（2017年度）より悪化しており、そこを基準値としたため、目標値が低くなりました。また、南支店は本社・福岡支店より燃費が良かったため、南支店の目標値は本社・福岡支店に比べて高くなっています。

本社・福岡支店において、コンビニ車以外は目標を達成していますが、省エネ運転の指導を継続することが大切です。南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、これが続くような指導が望まれます。次年度は車種ごとに的確な指導方法を研究・実施し、ドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

(3) 事務所及び作業場の電気使用量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

南支店において目標を達成できました。全社及び本社・福岡支店は目標を達成できませんでした。前年度は南支店のみが目標を達成できませんでした。今年度は逆に南支店のみが目標を達成しました。

福岡支店において、倉庫内の電灯の切り忘れがないようより細かく指導し、外部照明を人感センサー付の照明に替えるなど行いましたが、冬期のエアコン使用量増加に伴う電気使用量の増加を補うことは出来ませんでした。

南支店は、夏場のグリーンカーテンに一定の効果があると思いますが、年度によって目標達成できたりできなかったりしており、目標値が削減の限界に近づいているように感じます。全社でみて、現状の節電方法では目標値達成が次第に難しくなっています。エアコンの温冷熱を外へ逃がさず有効利用する方法や設備の整備など今までとは違う節電手法が求められています。

各拠点の事務所や倉庫においてもさらに節電の意識向上を進めます。

(4) 事務所及び作業場の灯油使用量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。今シーズン、本社・福岡支店では、石油ストーブよりエアコンの使用が多く灯油の使用量が減少しましたが、電気使用量が多くなりました。

福岡支店は事務所と倉庫が密接しているため、なるべく事務所で火気を使用しないようにしています。今後、灯油使用量が減少し電気使用量が増加する傾向が続くでしょう。

(5) 総排水量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

前年度に続き今年度も目標を達成しました。従業員皆さんに節水意識が定着したことを確信しました。この意識を低下させないよう努めてまいります。

洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。南支店においては、雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備が出来ておらず洗車場での洗車が出来ない状態が続いています。前年度からの課題として、設備工事の予算を早めに確保するよう努力します。本社・福岡支店の今年度の合計洗車時間／台数は下記の通りでした。

2019年度 本社・福岡支店の合計洗車時間 86時間38分／390台（13分／台）

洗車時間の報告は自己申告のため、漏れなく洗車時間の報告があるよう洗車時間報告の徹底を指導します。洗車で使用する総排水量を洗車時間から推測出来るよう工夫します。

南支店の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

(6) 廃棄物総排出量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

全社、本社・福岡支店及び南支店において、目標を達成しました。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2018年度排出量	62.883ト	98.450ト	161.328ト
2019年度排出量	50.563ト	92.740ト	143.304ト

前年度（2018年度）を基準値として3カ年の目標値を設定しましたが、前年度の廃棄物総排出量が多かったため目標値のハードルが下がり目標達成できました。

本社・福岡支店においては、荷主様のご協力のもとに、リサイクル業者の引き取りや産廃業者が直接収集を行うなどを行った結果、廃棄物総排出量の削減ができました。

南支店も荷主様のご協力があり、今まで当社で廃棄していた梱包材を一部荷主様の責任において廃棄するようになりました。今後は荷主様の廃棄物総排出量も削減出来るよう荷主様を

交えて提案や工夫を考えて進めていきます。

本社・福岡支店及び南支店において、今後も廃棄物の分別やリサイクル、お客様・荷主様のご協力をお願いし、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

(7) グリーン購入使用品目の積極購入・使用【全社】

物品を購入又は使用する際、グリーン購入使用品目を優先して選択するよう従業員へお願いしました。エコマークに関心を持ってもらえるよう努めました。また、会社購入・使用に限らず個人で購入や使用する色々な物品もなるべくエコマーク付きにしてもらえるよう、お願いしました。

(8) ダンボール使用量の削減【福岡支店】

今年度は目標を達成できませんでした。引越の繁忙期（3月、4月）に前年度以上の段ボールを使用したことが大きな要因でした。また、プラスチックダンボール、中古ダンボール使用量が共に前年度より減少していることも要因と考えられます。

プラスチックダンボールは経年による劣化の影響があり、中古ダンボールは供給（回収）不足があります。中古ダンボールの供給不足は手の打ちようがありません。

	プラスチックダンボール	中古ダンボール
2018年度	1, 046枚	7, 125枚
2019年度	650枚	5, 080枚

今後も中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材（テープ類や梱包材）の削減目標ができるよう検討します。

(9) 低公害車の100%導入の維持【本社】

今年度、7月に自家用車（中古）1台、8月2t平トラック（中古）1台の購入がありました。新車購入はありませんでしたので、低公害車の確認は行っていません。

(10) エコ・地域活動項目の継続と発展【南支店】

事務所横のグリーンカーテンは今年度で7年目となりました。前年度とほぼ同じくらいでしたが、思いのほか早く枯れてしまいましたが、夏場の事務所内の温度上昇抑止効果が感じられました。次年度も引き続き育てます。

営業所周辺の道路脇などを清掃する活動を、なるべく時間を取って週2回実施するよう努力しています。朝の業務の都合により毎週確実には出来ていませんが、これからも引き続き実施していきます。

上記以外に継続できる活動項目がなかなか見当たらず、次年度への課題とします。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容

当社としては、本社・福岡支店及び南支店の事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の通り活動を実施しています。なお、その達成状況や活動の実施状況を毎月のE A-21委員会にてフォローしております。

■ 環境活動計画の取組結果

(1) 電気使用量の削減

当社のCO₂排出量としては3番目に多い電気(2.78%)使用量を削減することとしました。

- ① 休憩時間の消灯や未使用時の電源OFFの実施と節電シールの表示
- ② 温度計の設置
- ③ 空調使用時の温度管理の徹底(夏季: 26℃~28℃、冬期: 20℃~22℃)
- ④ 節電管理表への記入による確認
- ⑤ コピー機の使用頻度を減らす

(2) 燃料使用量の削減・ガソリン軽油の燃費向上

当社のCO₂排出量としては1番目に多い軽油(93.55%)2番目に多いガソリン(3.39%)使用量を削減することが当社として最大の効果があると考え下記のような対策を実施しております。

- ① 無駄なアイドリングのストップ(荷物積込み及び荷降ろし時にエンジンをストップ)
- ② 急加速、急減速、不要な高回転、速度超過を行わない
- ③ 運行管理者より運転者への指導
- ④ 日常点検の実施(整備管理者による指導)
- ⑤ 整備管理者は定期的に車輛のタイヤの状態を確認する
- ⑥ 整備管理者はタイヤのローテーションをタイヤや運行の状況に応じて実施する

(3) 灯油使用量の削減

当社のCO₂排出量比率は低いですが、使用量が多いため使用量を削減することとしました。

- ① 冬期時室内温度を守る
- ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない
- ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する

(4) 産業廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の中で、引越や運送の梱包資材として使うダンボールの排出量を削減するための対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様にプラスチックダンボールの利用を勧める
- ② お客様のプラスチックダンボール利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 自社内で使用するダンボールは、プラスチックダンボールや買い物がことする

(5) 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物はリサイクル・リユースできるものも多く、これらを少しでも分別して再資源化できるような対策を実施しています。

- ① 一般廃棄物は、分別札に応じた分別がされている
- ② ミスコピーは再利用箱に入れる
- ③ 電子メール・掲示板・回覧・スキャナ・ファイルサーバーを利用し、印刷を減らす。また、会議資料等の配布物を少なくする
- ④ 排出量は、市販されている簡易な秤で計量する

(6) 総排水量の削減

当社の水資源の使用は主に車輛の洗車です。水を出しっぱなしにしないように、水を使う時間を短くするような対策を実施しています。

- ① 水を出っぱなしにせず、こまめに水を止め使用する
- ② 洗車記録書に洗車実施者と洗車時間を記入する（整備管理者への報告）
- ③ ストッパー付き洗車ノズルの使用の継続
- ④ 効率の良い洗車手順の調査・指導

(7) グリーン購入使用品目の積極購入・使用

当社のグリーン購入品の購入ルールを作り、購入担当者への指導とグリーン購入品の拡大への活動を展開しております。購入だけでなく使用品目も対象としています。

- ① 比較的多く購入や使用している物で、グリーン製品に替わる物を調査し、購入担当者や使用者へ周知指導する。
- ② トラックの修理部品や消耗品等のエコマーク商品の積極的な購入と使用
- ③ 個人で購入・使用する物もなるべくグリーン購入品やエコマーク付きを選択するよう従業員へお願いする。

(8) ダンボール使用量の削減

当社は引越業務を営んでいます。引越業務で使用するダンボールをリユースし、新しいダンボールの使用量を削減する対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様に再利用ダンボールの利用を勧める
- ② お客様の利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 使用済みダンボールの回収率を上げる工夫を拠点内で検討、実施する

(9) 低公害車100%導入の維持

当社は一般貨物自動車運送事業を営んでおり、運送業務で使用する車輛を低公害車へ替えていくことは必須だと考えます。

- ① 購入担当者は、低公害車の100%導入を維持する

(10) エコロジー・地域活動項目の継続と発展

当社は、身近なエコロジー活動や地域に貢献した参加できる活動を推進します。この活動から次への発展を期待します。

- ① これまでのエコ活動，地域に貢献・参加できる活動を継続する。
- ② エコ活動，地域に貢献・参加できる活動を調査し、手順や実施方法を検討し、実施する。

(11) その他

本社・福岡支店及び南支店は前年度から引き続き、計画に基づいて活動を実施しております。

- ① 教育訓練の実施
 - 従業員への教育
朝礼や安全会議でのエコアクション21への取り組みについての説明、社長及び各拠点長による指導・掲示物・指標などの掲示による意識向上を実施してきました。
- ② 毎年取組み状況チェック
- ③ E A-21 システムの確実な実施
- ④ その他
 - 当社内出入り業者に対して、アイドリングストップのお願い要請と事務所入口に「アイドリングストップ」の表示を実施しています。
 - この環境活動レポートを、本社、福岡営業所及び南営業所に常備し、外部に公開しています。

■ 環境活動計画の取組に対する評価

E A-21 環境改善取組みは2011年1月から実施し、本レポートも9回目となりました。途中、実施体制の変更や組織変更などが何度かありましたが、今年度から安定した会社組織での取り組みとなりました。

今年度は、2018年度を基準値とした3カ年環境活動目標値の最初の年度です。前年度までの2016年度に設定した3カ年環境活動目標値（2015年度を目標基準年度）では、2017年7月に合併したグループ会社「株式会社 明和運輸」の車両データが目標値に含まれておらず、そのデータの目標・実績管理が別管理となっていました。今年度から目標値に含まれて別管理するデータは無くなりました。

ガソリン・軽油の燃費向上目標を全社、本社・福岡支店及び南支店それぞれに設けて3年目となりました。今年度からさらに細かく管理出来るように、車種（営業車、自家用車、大型車、中小型車、コンビニ車、冷凍冷蔵車）ごとに目標を設定しました。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減に影響されます。燃費は外的要因から影響されることはほとんど無く、ドライバーの運転によるものが大きいです。また、廃棄物排出量は、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解に影響されます。このように環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを、会社経営の視点から引き続き検討・研究しています。

内部監査について、前年度に続き2回目を実施しました。前年度と同様に月次のチェックで使っています「活動手順書兼拠点用内部監査チェックシート」の拠点用内部監査チェックシートに運行管理内部監査項目を追加して福岡支店と南支店相互に実施しました。監査はE A-21 専門として行うのではなく、現業業務（運行管理の一部）の内部監査を主とし、それにE A-21 の監査を織り込むような形で行いました前回よりスムーズに進みましたが、E A-21 監査の質問内容などまだまだ様々な問題点がありました。前回、今回と監査人の教育の実施や進め方も含んでおり、監査人として勉強会も兼ねていました。これから監査内容・項目を整えていくとともに、監査人の教育、レベルアップを目指します。

前年度以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）について、今年度は新たな手法や教材の開発・発見は出来ずそのままとなっています。引き続き新たな手法や教材の開発を行います。

グリーン購入使用品目増は、購入使用品目を1品目定める目標から、グリーン購入使用品目全般に対しその購入と使用を積極的に行う目標にしました。

エコ・地域活動項目の増は、地域活動項目を1項目ずつ追加する目標から、これまで実施しているエコ・地域活動項目を継続し新たに実施できる地域活動項目を模索する目標にしました。

E A-21 の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

（1）電力使用量の削減（判定【全社：×，本社・福岡支店：×，南支店：○】）

南支店において目標を達成できました。全社及び本社・福岡支店は目標を達成できませんでした。本社・福岡支店の実績使用量が目標に対して101.46%、南支店は96.15%でした。目標値が削減の限界に近づいているように感じます。現状の節電方法では目標値達成が次第に難しくなってきました。エアコンの温冷熱を外へ逃がさず有効利用する方法や設備の整備など今までとは違う節電手法を模索します。

（2）灯油使用量の削減（判定【全社：○，本社・福岡支店：○（，南支店：○）】）

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。南支店においての灯油使用はありません。今シーズン、本社・福岡支店では、石油ストーブよりエアコンの使用が多く灯油の使用量が減少しましたが、電気使用量が多くなりました。エアコンとストーブをバランス良くまた効率よく利用するよう利用方法を検討します。

(3) 燃料使用量の削減 (判定【全社：○/○，本社・福岡支店：○/○，南支店：○/○】)

全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成しています。本社・福岡支店、南支店において、ガソリン・軽油の消費量がともに減少（燃料消費量の目標を達成した）しました。2018年度から車両台数は実質5台、従業員数は14名の減少となっております、企業規模の縮小によるとみています。

(4) ガソリン・軽油の燃費向上 (判定【全社：○/○，本社・福岡支店：○/○，南支店：×/○】)

南支店のガソリン以外は、全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油において目標を達成できました。今年度から車両を6つに分類（車種）し、本社・福岡支店、南支店毎にそれぞれ目標・実績管理を行うようになりました。

			目 標	今年度	結 果
本社・福岡支店	ガソリン	営業車	10.13 km/L	10.93 km/L	達成○
		自家用車	8.10 km/L	9.22 km/L	達成○
	軽 油	大型車	3.28 km/L	3.35 km/L	達成○
		中小型車	6.25 km/L	6.25 km/L	達成○
		コンビニ車	6.28 km/L	6.27 km/L	未達成×
南 支 店	ガソリン	営業車	11.71 km/L	11.33 km/L	未達成×
		自家用車	13.79 km/L	10.30 km/L	未達成×
	軽 油	大型車	3.03 km/L	3.19 km/L	達成○
		中小型車	7.11 km/L	7.20 km/L	達成○
		冷凍冷蔵車	3.41 km/L	3.71 km/L	達成○

本社・福岡支店の軽油（コンビニ車）及び南支店のガソリン（営業車と自家用車）が目標を達成できませんでした。

今年度の目標値は、前年度（2018年度）を基準値として設定しましたが、前年度の燃費は、ガソリン・軽油共にその前の年度（2017年度）より悪化しており、そこを基準値としたため、目標値が低くなりました。また、南支店は本社・福岡支店より燃費が良かったため、南支店の目標値は本社・福岡支店に比べて高くなっています。省エネ運転の指導は継続することが大切です。南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、これが続くような指導が望まれます。次年度は車種ごとに的確な指導方法を研究・実施し、ドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

(5) 廃棄物総排出量の削減 (判定【全社：○，本社・福岡支店：○，南支店：○】)

全社、本社・福岡支店及び南支店すべてにおいて目標を達成できました。

今年度の目標値は、前年度（2018年度）を基準値として設定しましたが、前年度の廃棄物総排出量が多かったため目標値の大きくなり目標達成できました。廃棄物総排出量の削減は進んでおり、本社・福岡支店においては、荷主様のご協力のもとに、リサイクル業者の引き取りや産廃業者が直接収集を行うなどを行った結果、廃棄物総排出量の削減ができました。南支店も荷主様のご協力があり、今まで当社で廃棄していた梱包材を一部荷主様の責任において廃棄するようになりました。今後も廃棄物の分別やリサイクル、お客様・荷主様のご協力をお願いし、廃棄物排出量を削減できるよう努力します。

(6) 総排水量の削減 (判定【全社：○，本社・福岡支店：○】)

総排水量の削減は目標を達成できました。

南支店の水道はすべて井戸水で、使用メーターも未設置のため、その使用水量を数値で計ることができません。目標値／実績値は、本社・福岡支店の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。南支店においては、雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備が出来ておらず洗車場での洗車が出来ない状態が続いています。前年度からの課題として、設備工事の予算を早めに確保するよう努力します。

洗車時間の報告は自己申告のため、漏れなく洗車時間の報告があるよう洗車時間報告の徹底を指導します。洗車で使用する総排水量を洗車時間から推測出来るよう工夫します。

(7) グリーン購入使用品目の積極購入・使用 (判定【全社：○】)

グリーン購入使用品目増は、購入使用品目を1品目定める目標から、グリーン購入使用品目全般に対しその購入と使用を積極的に行う目標にしました。

物品を購入又は使用する際、グリーン購入使用品目を優先して選択するよう従業員へお願いしました。エコマークに関心を持ってもらえるよう努めました。また、会社購入・使用に限らず個人で購入や使用する色々な物品もなるべくエコマーク付きを積極的な選択をお願いしました。

(8) ダンボール使用量の削減 (判定【福岡支店：×】)

今年度は目標を達成できませんでした。引越の繁忙期(3月、4月)に前年度以上の段ボールを使用したことが大きな要因でした。また、プラスチックダンボール、中古ダンボール使用量が共に前年度より減少していることも要因と考えられます。

プラスチックダンボールは経年による劣化の影響があり、中古ダンボールは供給(回収)不足があります。

今後も中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材類(テープ類や梱包材)の削減目標ができるようデータの収集と準備を行います。

(9) 低公害車100%導入の維持 (判定【本社：○】)

今年度、7月に自家用車(中古)1台、8月2t平トラック(中古)1台の購入がありました。新車購入はありませんでしたので、低公害車の確認は行っていません。

(10) エコ・地域活動項目の継続と発展 (判定【南支店：○】)

エコ・地域活動項目の増は、地域活動項目を1項目ずつ追加する目標から、これまで実施しているエコ・地域活動項目を継続し新たに実施できる地域活動項目を模索する目標にしました。事務所横のグリーンカーテンは今年度で7年目となりました。前年度とほぼ同じくらいでしたが、思いのほか早く枯れてしまいました。夏場の事務所内の温度上昇抑止効果が感じられました。次年度も引き続き育てます。節電効果を期待します。

営業所周辺の道路脇などを清掃する活動を、なるべく時間を取って週2回実施するよう努力しています。朝の業務の都合により毎週確実には出来ていませんが、これからも引き続き実施していきます。継続できる活動項目がなかなか見当たらず、次年度への課題とします。

■ 今後の取組内容

今年度は、前年度（２０１８年度）を目標基準年度とした３カ年環境活動目標値を設定し、その最初の年度です。車両・燃料に関わる項目は、２０１７年７月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両・燃料を含めました。また、ガソリン・軽油の燃費向上の目標実績管理を車種ごとに細分化しました。

- ①ガソリン ・営業車（福岡支店・南支店） ・自家用車（福岡支店・南支店）
- ②軽油 ・大型車（福岡支店・南支店） ・中小型車（福岡支店・南支店）
- ・コンビニ車（福岡支店） ・冷凍冷蔵車（南支店）

燃費向上はドライバーへの指導を継続することが大切です。今年度のデータを基に次年度は車種ごとに的確な指導方法を研究・実施し、ドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減に影響されます。また、廃棄物排出量は、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解に影響されます。このように環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを、会社経営の視点から引き続き検討・研究してまいります。

廃棄物排出量削減について、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解を得られるよう努力します。福岡市の事業所ゴミ処理が２０２０年１０月から変更があります。紙類の事業所ゴミの受け入れは一切受け付けなくなり、民間の古紙業者（産廃業者）へ処理を依頼することとなります。事務所から排出する紙類を分別、引越の資材ゴミ、梱包材や事務所移転で排出されるゴミの紙類を分別する運用ルールを決め、実施します。また、お取引先（荷主）様のご協力やご理解も得るための活動も行います。

南支店の雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備について、敷地内水道配管の整備を含めて設備工事の予算を確保するよう努力します。

内部監査について、前年度の問題点と今年度実施した内部監査の内容を整理し、現業業務の内部監査とE A-21の監査項目・監査内容を整えて、更に充実した内部監査が実施できるよう進めてまいります。また、マンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）は、新たな手法や教材の開発を引き続き行います。

次年度は、２０１７年版ガイドラインの適用となります。２０１７年版ガイドラインに適合するよう整備し、ガイドライン及び環境経営の視点から環境方針などの見直しを行います。

E A-21の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

社内でのチェックリストを基に許可証・契約書・管理票・マニュアル・記録データ・その他帳票類等を点検、順守状況を確認したところ環境関連法規、事業に係わる法規いずれも遵守していることを確認しました。

《当社の関連する主な法規制》

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	・廃棄物の削減 ・廃棄物の適正処置の確保 ・産業廃棄物保管基準遵守 ・産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・産業廃棄物管理票の管理義務 ・産業廃棄物収集運搬業者	遵守確認済
水質汚濁防止法	・排水への油分混入の防止	遵守確認済
自動車リサイクル法	・リサイクル費用の預託 ・使用済み自動車を引取業者へ引き渡す	遵守確認済
労働安全衛生法	・安全衛生管理体制 ・健康診断	遵守確認済
消防法	・消防設備の維持管理	遵守確認済
貨物自動車運送事業法	・事業用トラック使用の為の遵守	遵守確認済
道路運送車両法 道路交通法	・所有車両の法定点検、日常管理 ・法定速度遵守	遵守確認済
倉庫業法	・営業用倉庫を営む為の遵守	遵守確認済

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社は関連法規制及び同意事項の遵守状況確認を毎年1回実施しており、その結果、違反・訴訟及び地域住民等からのクレームはありませんでした。又、今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し適時改善を行い更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

「ガソリン・軽油の燃費向上」は、目標管理を本社・福岡支店グループと南支店グループに分けて3年目となり、今年度からさらに車種ごとに細かくしました。ガソリンを、営業車と自家用車、軽油を、大型車・中小型車・コンビニ配送車・冷凍冷蔵車の6種に分けました。結果は、本社・福岡支店グループの軽油のコンビニ車及び南支店グループのガソリンの自家用車と営業車以外は目標を達成しました。目標を達成できたのは、今年度が2018年度を目標基準年度とした3カ年環境活動目標値を設定した最初の年度で、目標値が甘くなったためです。グループ間での差もあります。このような条件下で目標を達成できなかった南支店グループのガソリン車は、運転に問題があると思われます。燃費向上の目標値は、目標基準年度のから設定される目標値とは別に、会社の経営方針から算出した車種ごとの燃費を目標値に指定した方がコストとしてみるときに判断しやすくなります。これまで適切な運転指導が管理者から行われていなかったように感じます。車種ごとに目標実績管理することで、より細かく適切な運転指導が可能となります。面倒でも原因を追求し、足りない指導方法を探し、是正しなくてはなりません。

「電気使用量の削減」について、今の活動手順ではほぼ限界に近づいています。設備の更新はコストがかかります。コストをかけずに、温冷熱を外へ逃がさず有効利用する方法など今までとは違う節電手法を模索します。

福岡支店の事務所は倉庫と隣り合わせなので、火災予防のため事務所内でなるべく火気を使用しないように指導しています。暖房は灯油から電気へ移行しています。

「廃棄物排出量の削減」の課題として、当社だけで解決するものではなくお客様・荷主様へお願いやご相談し、お互いに理解し協力しなければなりません。行政や社会事情の変化や目標達成のために行った取り組みが重要であり、それをE A-21で表現して欲しいと考えます。

南支店に雨水利用のためのタンクを設置し洗車場を整備する件は、南支店の上水道配管の整備を含めて検討することにしました。来年度の予算確保に努力します。

内部監査について、「まずやってみよう」から始めて2回目は少し慣れたようでした。運行管理業務の内部監査とE A-21の監査項目の同時実施は、監査への入りやすさという効果がありました。来年度はさらに監査項目・実施内容を更にレベルアップするよう期待しています。

教育の内容や指導事項のマナー化の解消は、まだ解決策が出ていません。新たな手法や教材の開発を引き続き行います。また、新しいガイドラインの適用により今一度取り組みを考えてまいります。

問題点や予防処置に敏感になってほしい。特に拠点長や管理者が率先して問題点の是正や予防処置を行い、業務改善を進めることを理解し実践してもらいたい。

次年度は、2017年版ガイドラインの適用となります。2017年版ガイドラインに適合するよう整備し、ガイドライン及び環境経営の視点から環境方針などの見直しを行います。

近年の自然災害やテロ行為など企業の危機管理を知り、緊急事態に備えて平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための事業継続計画（BCP）の策定を進めます。

これからが新たな挑戦だと思い、次の階段へステップアップするために、当社自ら販売・提供するサービスを考え、地域活動への参加・協力を推し進めてまいります。

以上